



北こぶし



◇発行人
俳人協会北海道支部 大郷石秋
◇発行所
俳人協会北海道支部 事務局
〒005-0841
札幌市南区石山1条2丁目4-18
辰巳 奈優美 方

(事務報告)

◇令和四年も新型コロナウイルス感染症拡大の第六波と共に幕開けし、相変わらず閉塞的な生活を余儀なくされています。

◇このような中、第十四回俳句大会は、本部創立六十周年記念北海道大会と併称し、道内選者に加え、本部より四名の選者に選をいただきました。応募数は六三八句でした。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

◇令和四年度の行事につきましては、コロナ感染の収束が見通せないため、総会、吟行会ともに未定です。今年も総会が書面表決となる可能性もありますが、改めてご連絡致します。

◇俳人協会創立六十周年の記念事業の一環として以下の出版物が刊行されています。『ふるさとの情景』では北海道から六項目掲載されています。この機会に是非ご覧ください。(陽)

俳人協会創立60周年 記念事業出版物

◆俳人協会六十年史

俳人協会の発足から六十年の歩みを年度ごとに編集。
頒価2,500円 送料310円

◆声のアルバム

歴代会長講演録より
歴代会長八人の講演録を抜粋
頒価1,500円 送料180円

◆俳人協会所蔵名品集

―近世俳諧の潮流―
俳人協会所蔵の名品を紹介。
頒価1,200円 送料370円

◆俳人協会所蔵名品集

―近現代俳句の歩み―
俳人協会所蔵の名品を紹介。
頒価1,200円 送料370円

◆俳人協会賞作品集「第三集」

受賞作品三十三冊を二段組にて紹介。
定価3,850円 送料520円

◆ふるさとの情景

「俳句文学館」連載の250編を収録。
頒価2,800円 送料310円



北海道掲載分

- 文化と歴史の町・小樽 (吉田功次郎) H 12
- アイヌ文化学ぶ心を・旭川 (河村 岳葉) H 15
- 煉瓦と文教の町・江別 (西田美木子) H 20
- 開拓の名残を今に・旧永山 武四郎邸 (野崎 声山) H 21
- 野鳥の楽園・ウトナイ湖 (名取 光恵) H 26
- 海鳥と原生林の離島・大売島・焼尻島 (辰巳奈優美) H 30

申込・問合せ先

俳人協会「創立60周年記念事業」係
発送予定
令和四年一月中旬より順次発送

※送料について

- ①全六冊一括購入される場合、1万円、送料無料(三月末まで)。
- ②同一出版物を十冊以上、お申込みの場合、送料無料(三月末まで)。
- ③所蔵名品集(近世・近現代)を同時にお申込みの場合、送料は370円。
- ④その他、ご不明な点はお問合せください。

公益社団法人俳人協会

〒169-8521
東京都新宿区百人町三丁目二十八番十号
TEL・03-3367-6621(代)
FAX・03-3367-6656
振替口座 00160-2-273
<https://www.haikyokai.jp>

会員の四季

通季

(五十音順)

折り紙の端の整ふ涼しさよ 青木 まゆ美 (鴻・花桐)
 青北風や過客に開くチセ五棟 浅野 数方 (白魚火)
 母の背を追っていますと墓洗う 阿部 れい子 (道)
 勘太郎月夜唄にて卒業す 池田 北陽 (雲の木)
 コロナ禍に負けてならじと梅酒飲む 飯川 久子 (鴻・花桐)
 露けさの杭に掛けたる帽子かな 天田 牽牛子 (馬酔木・花鶏)
 たも網や素手なと鯨群来の浜 石井 こう子 (鶴)
 雲の峰巨大な神の指紋かな 池端 素舟 (道)
 仔馬生れサラブレッドを疑はず 井村 美智子 (ゆく春)
 美ら海の碧き光や初明り 市川 節子 (白魚火)
 ふつくりと揚がるドーナツ窓若葉 伊藤 久美子 (いには・明日葉)
 開拓の土の匂の古雛 伊藤 織女 (雲の木・知音)
 万緑やハナ差で制す底力 伊藤 黎 (水脈)
 ペーチカの炎へ声をただいまと 岩城 睦子 (道)
 野の花の謳ひ出したる五月晴 岩筋 由紀子 (葦牙)
 蟻の列砲台跡にひびあまた 内山 実知世 (白魚火)
 一瞬のワクチン注射蟬しぐれ 遠藤 由紀子 (いには・草木舎)
 断片となりゆく月日敗戦忌 生出 紅南
 寒波来る風をはらみし子のゆばり 大内 鉄幹 (万象・たかな)
 沈黙の石に緑雨の降り止まぬ 大窪 孝子 (道)
 雨蛙雨に溶け入り雨に跳ぶ 大澤 淳基 (壺・岳)
 朔北に見失ひたる寒北斗 大澤 久子 (天為)
 括られて紅をこぼすや沙羅紅葉 大玉 文子
 里の秋師の水滴の鑑定書 大房 ひびき (道)

阿寒富士遠くにありて菊日和 大山 れんげ (若葉)
 来世までひたすらに鳴く地虫かな 岡澤 邦彦 (アカシャ)
 真青なる空の淵より滝落つる 奥野 津矢子 (白魚火)
 願ひ事火球に唱へ受験の子 奥山 博子 (若葉)
 慟哭の海三月の水平線 尾村 勝彦 (葦牙)
 カーリングの応援に夏終りけり 笠井 操 (壺)
 待春の灯しを小屋に船大工 笠原 敦子 (若葉)
 光芒や川面の風の滑りゆく 梶川 蓉子 (方円)
 マフラーに想い出巻いて老いにけり 金田 一波 (道)
 園児去りぬ残暑の壁のピノッキオ 狩野 和子 (雲の木・郭公)
 盆の海母なる風へ出漁す 川端 朋子 (道)
 軽鳴の子の十羽あとからもう一羽 川村 良子 (若葉)
 初雪とテレビが言へり窓を見る 河原 小寒 (壺)
 小言めく余韻残して雷去りぬ 北野 克誠 (道)
 空蟬も吾もよるべの菩薩像 木谷 洋子 (若葉)
 ピアノより楽譜ちらばる桜かな 久保田 哲子 (百鳥)
 紫陽花の藍を真中の花手水 熊川 陽子 (あざみ)
 恍惚と蛇泳ぎゆくまひるかな 熊谷 佳久子 (天為)
 汐の香の網渦高し浜薄暑 桑原 清恵
 小春日やひと日にひとつ甘いもの 小林 さつき (白魚火)
 新じやがを掘り残照を埋め戻す 小林 布佐子 (道)
 大根のヒゲにうごめくスノビズム 小林 道彦 (道)
 琅玕の湖に風花ざわめけり 齋藤 静弘 (道)
 紙を裂く音の鋭きからしばれ 齋藤 信義 (俳句寺子屋)
 木枯や目を回しある風見鶏 齋藤 ふじお (葦牙)
 立冬や朝の紅茶を濃く入れて 斉藤 みつ子 (若葉)

我の名を呼ぶ夫居らず小鳥来る	佐藤 琴美 (白魚火)	流木に旅の途中の赤とんぼ	大郷 石秋 (秋麗)
遠雷や日本沈没かも知れず	佐藤 天津緒 (いには)	春惜しむ回転椅子を繕ひて	角田 周子 (若葉)
草苗や電車来るまで海眺め	佐藤 寿子 (雲の木・知音)	雪道を勢みをつけて身重馬	角田 桑里 (秋)
米寿なほ始発駅なる初日の出	佐藤 れい子 (アカシヤ)	蒼天の窓を縁取る六花	富田 倫代 (白魚火)
小春日や猫背をぽんと叩かれて	澤口 辰子 (若葉)	愚痴ばかり書くかも知れぬ日記買ふ	土門 きくゑ (若葉)
弾初的心ひとつに「春の海」	篠田 瞳 (アカシヤ)	犬小屋の餌皿ころげし秋旱	中神 洋子 (アカシヤ)
凍蝶を掬ふに五指をそろへけり	茂尾 喜美子 (アカシヤ)	外套を吊せば来し方あふれだす	中西 史子 (河)
獅子像の口で水噴く巴里祭	清水 芳堂 (道)	枕木を積み虎落笛栖まはせる	中村 英史 (方円)
地吹雪に只うなだれて牧の馬	菅原 洋子 (若葉)	夏至の夜は親しき友に文を書く	中村 公春 (白魚火)
頭ほどの大ききであり白牡丹	先崎 クニ子 (対岸)	道尽きて大綿の舞ふ離農跡	中森 千尋 (道)
裏山の迫る漁村や干大根	高木 則子 (アカシヤ)	芽起こしの雨や木の色木の香り	名取 光恵 (いにはアカシヤ)
幸せは子があてこそやさくらんぼ	高瀬 恵子 (アカシヤ)	炎熱がしやがむランナーに容赦なく	西 千里 (天為)
ぢいちやんもままごとの客赤のまま	高田 喜代 (白魚火)	向日葵の一万本に見詰めらる	西川 玲子 (白魚火)
ドアの外に一人静と置手紙	高橋 千草 (壺・藍生)	出任せのおとぎ話や春の宵	西田 美木子 (白魚火)
初春や喜寿に抱きたる孫五人	高松 暮秋 (道)	えぞにうの離農跡地を囲みをり	西村 榮一 (壺・銀化)
卸付け春のひかりも縫ひ止むる	高山 京子 (白魚火)	掛蕎麦に一味をふつて三日かな	仁和 亮 (知音)
閑古鳥龍太の海の明るさに	滝谷 泰星 (雲の木・郭公)	帰省する度に饒舌次男坊	庭田 一美 (道)
人知れず風を衣に神の旅	竹内 直治 (アカシヤ)	歌枕なき故郷の吹雪けり	橋本 和男 (天為)
ふる里の異郷と紛ふ海霧の中	竹内 美枝子 (アカシヤ)	手鏡に三伏疾うに越えし顎	橋本 末子 (鶴)
あらたまの華甲の衣よろけ縞	辰巳 奈優美 (若葉)	切り貼りの魚のうごく春障子	畠 典子 (葦牙)
なにあれど水のごとくに年暮るる	田中 滋子 (壺)	動き出す初日に染まる大気圏	服部 若葉 (白魚火)
あをぞらと繋がる大地亜麻の花	田中 とも子 (若葉)	鼎座せる阿寒三岳初明かり	花木 研二 (葦牙・白魚火)
牡丹散つて今生のいろ地に還す	田辺 武子 (若葉)	蝌蚪の紐快樂の揺らぎありにけり	林 郁子 (香雨)
日をのせて運河はなるる薄氷	谷野 松枝 (天為アカシヤ)	棟上げの餅とんで来る麦の秋	林 佑子 (河)
帰宅すぐ手を洗ふくせ冬に入る	田森 つとむ	初時雨猫を抱けば暮れにけり	半田 稜 (ろんど・街)
終点の近づく車窓大刈田	田湯 岬 (道)	髪結うてうなじの黒子初鏡	菱沼 栄子 (壺)

碎氷船待機の湖畔余寒なほ平 京子 (若葉)
 振り向けば秋ぼとりと音のしたやうな 平間 純一 (白魚火)
 髪洗ふ子等に読む本決まりけり 広瀬 むつき (白魚火)
 花冷や円空仏の片ゑくぼ 藤田 美和子 (河)
 芽木の丘狐の嫁御ピース撒く 藤田 洋子 (鶴)
 物語ありそな紅葉色づきぬ 前川 ひとみ (道)
 冬麗や触れてしやりしやり父の骨 松王 かをり (銀化)
 籠りゐに倦みて西日に倦みゐたり 松田 ナツ (泉)
 お月さんついて来るよと手をつなぐ 三浦 香都子 (対岸)
 細波の河に逆立つ漁の鴨 三浦 紗和 (白魚火)
 源流のまだ覚めぬ村仔馬立つ 三國 矢恵子 (道)
 夢に見し母の笑顔や明易し 森 淳子 (白魚火)
 ウインドに並ぶ金管麦の秋 森田 佳代子 (百鳥)
 白夜めく製缶工場錆びし町 安田 孝子 (天為)
 木の芽雨小声の猫に起されて 山岸 正俊 (道)
 堰堤に挑める鮭の黒びかり 山城 力ヨ (若葉)
 晩景の兀と涼しき利尻岳 陽 美保子 (泉)
 ひめゆりの塔への標春時雨 吉田 星潮 (澤)
 木を彫れば容貌となりぬ朧月 山 幸喜 (朱夏)
 獵銃の先の命や冬の虹渡 部 彩風 (道)

以上 一二三名



謹 悼

■岡本 正敏氏 (濃美)

R4.1.4 (91歳)

昭和七年樺太生まれ。

昭和二十六年「玉蟲」、昭和二十八年「雲母」、昭和四十六年「青樹」、昭和四十九年「北の雲」に入会 (いずれも終刊)、その後「濃美」に所属。俳人協会北海道支部相談役。

医師、大学教授として活躍するかたわら、俳句にも一方ならぬ情熱を捧げ、昭和六十一年第一句集『山河』にて第七回鯨島賞受賞。長年、北海道新聞「日曜文芸」俳句欄の選者として、

道内俳壇を牽引して来られた。篤実なお人柄で多くの後輩を育て、同じく俳人の嘉子夫人とは数年前ダイヤモンド婚を迎えられた。夫人との海外旅行は五十力所以上に及び、海外詠も少なくない。

句集に『山河』『石狩』、著書に『俳句の一会』『続・俳句の一会』『続々・俳句の一会』『旅・俳句の一会』『旅続・俳句の一会』。指導句会の合同句集『ポプラ』は四十巻に及ぶ。

最後に、「雲母」巻頭句 (昭和五十四年六月号・飯田龍太選) を記して氏を偲びたい。聴診器ことりと置けば雪嶺あり

(陽美保子 記)

自選十句 第二句集『石狩』より

翔ぶもののひかり眩しむ初山河
 龍の尾を捕へそこねし夢はじめ
 晩年の父と日向の福寿草
 散りぎはの花びらのいろ西行忌
 さくら湯のさくらさくらの婚の唄
 ほほづきの花過ぎのいろ適齢期
 まる書いて石蹴りの児に秋の虹
 双魚忌や枯木は細き影持てり
 雪の夜のしづけさにゐて眼鏡拭く
 龍太逝く雪嶺の入日消え易し

新会員紹介

俳号(所属結社誌)

- ① 簡単な俳句歴
② 自選の一句

岩崎とし恵(山茶花) 函館

① 平成二十四年「山茶花」入会
平成二十六年「山茶花」同人

② 膝に来て絵本を開く良夜かな
小澤 泰子(道) 札幌

① 平成十六年「道」入会

② 一筋の風が励ます極暑かな
檜山 豊子(若葉) 旭川

① 昭和五十七年「青 女」入会

平成 六年「若 葉」入会

② 健康は靴音にあり薄暑来る
北城 美佐(鴻) 札幌

① 平成 元年「鴻」入会

② 家族とは小さき宇宙盆の月
小杉 好恵(白魚火) 札幌

① 平成二十八年「白魚火」入会

平成三十一年「白魚火」同人

② 尻取りのきりんで終はる日向ぼこ
櫻井 伸良(いには) 苫小牧

① 平成二十八年「結ひの会」入会

平成三十年「明日葉会」入会

令和二年「いには」入会

② 氷柱もて殺陣師をまぬる童かな
佐々木克子(香雨) 函館

① 平成三十一年「香 雨」入会

令和三年「香 雨」同人

② 着ぶくれて漁師振るまふこつこ汁

佐藤柝の音(道) 旭川

① 平成二十七年「道」入会

令和 元年「道」同人

② 泡ひとつ吐ける金魚になりたき日

更科 武四(雲の木) 羽幌町

① 平成二十三年「北の雲」入会

平成二十八年「巻 雲」入会

令和二年「雲の木」入会

② 手に余る思ひあれこれ草むしり

田島みつゐ(白魚火) 苫小牧

① 平成二十八年「白魚火」入会

令和 元年「白魚火」同人

② 秋深し手首に計る骨密度

沼田 泥舟(いには) 苫小牧

① 平成二十九年「結ひの会」入会

平成三十年「明日葉会」入会

平成三十一年「いには」入会

② 蓑虫や旅の誘ひに揺れてゐる

正田 源(道) 札幌

① 平成二十八年「道」入会

令和二年「道」同人

② エイプリルフルの朝の体温計

星 星予(壺) 札幌

① 平成三十年「壺」入会

令和三年「壺」同人

② 春炬燵ページ進まぬ絵本かな

三浦 慶子(壺) 札幌

① 平成十一年「壺」入会

② ささらぎのきらなすかせのかたほほに

八重樫洋子(若葉) 旭川

① 昭和五十七年「青 女」入会

平成十九年「若 葉」入会

② ふと煙草匂ふ貸本冬深み

山田ゆきこ(鴻) 小樽

① 令和 元年「鴻」入会

② 幼子のマスクに小さき花刺繡

蘭 さと子(鴻) 札幌

① 平成三十年「鴻」入会

② マリンバの奏者は女性春の宵

地方記事

出稿のお願い

句碑建立などの特別な行事、訃報などの情報を事務局にお寄せ下さい。重複してもかまいません。

受贈句集紹介

◇『花筏』(株式会社アイワード)

吉尾 広子(道)

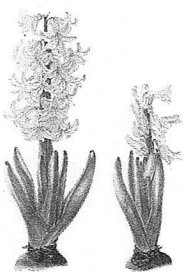
北竜町生れの著者による第二句集。序文は「農に生きて」と題して「道」の主宰田湯岬氏が執筆、平成十三年から令和二年までの作品から、三百三十九句が収められている。

水田とメロン栽培の農業を営んでいた時代から、現在に至るまでの、生活に根差した作品が並ぶ一集。

・継続か離農かいまだ冬田道
・一行は田を売りしこと日記果つ
・花筏いくさなき世を令和へと

(R3・8・8刊)

(辰巳奈優美 記)



令和3年度刊行句集

(R3.4.1~R4.3.31)

句集名	著者	結社名	刊行
1 花 筏	吉 尾 広 子	道	R3.8.8

上記句集は第42回鮫島賞受賞が決定しているため、対象句集に該当しません。そのため選考は次年度に繰り越します。

◇出版物送付のお願い

会員におかれまして、句集など発行されましたら、一冊を事務局に御寄贈下さい。
北海道俳人協会賞応募作品は別途選考委員にも各一冊お送り下さい。



第二十五回北海道俳人協会賞 選考委員

選考条件

- 磯江 波響（壺）
〇九三〇〇三三 網走市駒場南二丁目 七十五
- 大澤 久子（天 為）
〇六〇〇〇三三 札幌市中央区北三条 西十八丁目一北三条ビル三〇三
- 高松 暮秋（道）
〇八〇〇二四七 帯広市自由が丘 六一三二一八
- 滝谷 泰星（雲の木）
〇四〇〇八六七 札幌市清田区北野 七条二丁目十一六
- 竹内 直治（アカシヤ）
〇五三〇〇四二 苫小牧市三光町 五丁目三十一一五十七

※任期は二年（選考繰越の場合を除く） 通常、毎年半数を交代

- ① 俳人協会北海道支部会員の句集であること。
- ② 令和三年四月一日から令和四年三月三十一日までに刊行されたものであること。
- ③ 対象者は、選考委員各氏と事務局あて各一冊を送付して下さい。

★ 合同句集、遺句集及び既受賞句集は対象外となります。

北海道俳人協会賞選考内規

- 一、賞の性格
この賞は俳人協会北海道支部の会員が発行した句集を対象とし、最優秀と認められる句集の著者を顕彰するものとする。
- 二、選考の対象
四月から翌年の三月の年度内に刊行した句集で、遺句集、合同句集及び既受賞者は対象としない。
- 三、選考委員
選考委員は五名とし、支部長が選出し委嘱する。選考委員の任期は二年とし、毎年半数交代とする。
- 四、選考の方法
第一次審査は書面による推薦とし、第二次審査は選考委員の合議による選考とする。顕彰に値する句集がないと認められるときは、該当者なしと決定する。
- 五、結果の発表
選考の結果は、最近に発行する会報に掲載するとともに、受賞者本人に通知する。
- 六、顕彰の方法
顕彰は、支部の定時総会に於いて行い、正賞として表彰状、副賞として賞金五万円を、それぞれ贈呈する。

事務局の一年

事務局 局長 辰巳奈優美
事務局次長 陽美保子・岡澤邦彦
事業部 岡澤邦彦・中森千尋・奥野津矢子
編集部 陽美保子・小林道彦
編集 計 西田美木子

コロナウィルス感染拡大の影響を受け令和三年度の行事は俳句大会以外を中止。
左記のほか、総会資料、俳句大会、会報等の編集作業をかねて2・7及び自宅にて実施。

- 四月十五日 令和一年度決算会計監査 書面承認
- 四月下旬 令和二年度第二回役員会 書面表決
- 五月二十一日 北海道支部第三十七回総会 書面表決
- 五月三十日 第十三回俳句大会入賞者への賞品発送
- 九月三日 事務局編集会議
- 九月二十九日 会報96号発行・発送（佐藤印刷より）
- 十一月十七日 事務局会議
- 十一月二十六日 令和三年度第一回役員会
- 一月十七日 事務局会議（俳句大会作品初校）
- 一月二十五日 事務局会議（俳句大会作品二校）
- 三月二日 事務局編集会議
- 三月三十日 会報97号発行・発送

（於：かでの2・7活動センター）
（奥野津矢子 記）

受贈俳誌より

「道」(二月号)

教会のクルスに縋る冬の蝶

西増 正夫

早々に裸木となり無表情

滝 玲子

手みやげの大鱈捌く夕飼かな

渡部 彩風

彫り上げし刃物が臭ふ囲炉裏端

堀田 幸子

挿り鉢に夕日零してとろろ挿る

金田 一波

「アカシヤ」(三月号)

御降の激しすぎたる樺戸郡

金行 康子

編棒に百の作り目風花す

高木 則子

空港の街輝ける初御空

松岡 久直

珈琲は常のグアテマラ春を待つ

小笠原和子

安倍川の餅焼く妻はねんごろに

佐藤 冬彦

「葦牙」(三月号)

長靴は三ツ馬印雪を搔く

石川 節子

ふところに保護猫のゐる霜夜かな

畠 典子

俳諧は山の如くに去年今年

畑中ひろ子

無人駅出てふりかぶる大銀河

菅原 湖舟

泰然と腕組む雪の啄木像

成瀬 明

「雲の木」(三月号)

松籟を悠かにしたるいかのぼり

園部早智子

初明り深き入江の三河湾

江西 淑江

凍て土や鼻すりつけて牧の馬

石田たもつ

朝の一葉ベーコンと春キャベツ

伊藤 淳雨

玉垣に雀の遊ぶ松納め

大原登美子

「雪嶺」(一・二・三月号)

初雪の記憶は夫の誕生日

山本 圭子

鳥渡る空の広さとなりにつけり

岡本 愛子

肌寒や選挙演説聞き比べ

成田恵美子

病床に燃ゆるサルビア生きよとて

佐竹 正治

秋立つと聞けば聴かるる風の音

小川原紀美雄

「壺」(三月号)

節つけて唱ふ七草祖母ゆづり

笠井 操

シクラメン少女の最良五人組

鈴木アツ子

エスキモーの村かと紛ふ氷下魚釣り

磯江 波響

読みさしもとつちらかつて七日かな

石坂 憲文

悉く予定つぶして雪積もる

正岡 マチ



風 韻 帳

おめでとつございます

★俳人協会創立60周年記念第60

回全国俳句大会にて次の方々が

入選されました。

特選

・角谷 昌子選 藤田美和子氏

・西山 睦選 小林 道彦氏

入選

・今瀬 剛一選 中西 史子氏

・片山由美子選 高山 京子氏

・小島 健選 笹原 和子氏

・小島 健選 岩崎とし恵氏

会員の皆様へ

会員の皆様におかれまして、入

退会また、その他のお問合せの際は、

支部事務局 辰巳奈優美

☎011(591)4609まで

ご連絡下さいますよう、何卒よろ

しくお願い申し上げます。

— お願い —

会報「北こぶし」は通常メー

便にてお届けしておりますので、

住所変更の際は、郵便局への届出

と別に、支部事務局へのご連絡を

お忘れなくお願い致します。

・中原 道夫選 小林 道彦氏

・中原 道夫選 藤田美和子氏

・中原 道夫選 名取 光恵氏

・仲村 青彦選 高谷 節子氏

・能村 研三選 名取 光恵氏

★第28回俳人協会俳句大賞に次

の方々が入選されました。

特選

・辻 恵美子選 生出 紅南氏

入選

・古賀 雪江選 山内 元子氏

俳人協会創立六十周年記念 第十四回 北海道支部俳句大会速報

一位(14)	樹の齡磐の齡や滴れり	苫小牧	名取	光恵
二位(13)	ラ・フランス一個描きて遺筆なる	札幌	小松	正幸
三位(12)	根の国に父はは待たせ温め酒	小樽	橋本	末子
四位(11)	信長の髭を手入れの菊師かな	岡崎	水野	幸子
五位(10)	明日も又来るかの様に卒園す	北広島	高田	小幸
五位(10)	渡り鳥逢はねば人の遠くなる	札幌	辰巳	佐知子
六位(9)	朝顔や路地の落書消さずおく	札幌	斉藤	みつ子
七位(8)	熊の分残しリュックに山葡萄	音更	山西	信一
七位(8)	雪しきり沖に島とも礁とも	函館	斉藤	ふじお
七位(8)	ひとりづつ渡る木の橋小鳥くる	旭川	佐藤	れい子
七位(8)	鍬鎌を納屋にねかせて星まつり	札幌	久保田	哲子
七位(8)	記憶みな母につながらる更衣	北見	土屋	加代子
七位(8)	雪虫や足早に来る往診医	石狩	畑中	貴子
七位(8)	冬銀河還らぬ島に祖父の墓	恵庭	関	静穂
八位(7)	麦の芽の青空までの百町歩	札幌	陽	美保子
八位(7)	手招きの庭師の先に小鳥の巢	函館	広瀬	むつき
八位(7)	停学の訃など聞かず大根干す	音更	徳田	則子
八位(7)	三人の蛇の長さに違ひあり	北見	花木	研二
八位(7)	秋蝶の日差し挟みて翅を閉づ	札幌	小島	康司
八位(7)	縋るものなき世を鳴いて残る虫	函館	高木	則子
八位(7)	トンネルの先に一点雪解光	札幌	岡村	有子
八位(7)	階段を二段上がりて夜学の子	旭川	小林	布佐子

※カッコ内は得点です。

※作品は同点の場合、特選句を優先とし投句の到着順としました。

事務局&編集室



◆スペイン風邪は三年で終息したそうですが新型コロナウイルスはオミクロン株の登場で今までにない猛威を奮っています。インフルエンザと同じようにつきあっている世の中はいづるのでしょうか。

断捨離の一環で抱えていた多くの本を本屋に廉価で買い取ってもらいました。図書館にも感染予防から行くのを控え、積ん読状態の本を片っ端から片づけていこうと考えています。他にコロナ禍で控えていたものがあります。合わなくて見えづらかった眼鏡をこの二年間我慢して使っていました。(やつと先日新調。世の中が明るく見えま

す。)また散髪も二年間家内にやつてもらいました。外食やデパ地下での買い物もご無沙汰です。吟行会などで早く皆さんとお会いできることを待ち望んでいます。(小林道彦)

◆本部創立六十周年記念・北海道支部第十四回俳句大会に、応募をいただきありがとうございます。今回は道内選者に加えて、本部の権氏・角谷氏・墓目氏・福永氏の四氏に選をいただいております。

札幌は一月の大雪に続き、二月も台風並みの爆弾低気圧により冬の嵐に。生活道路は其処こ

編集後記

(中森千尋)

こで車が雪に埋まり身動きできない状態。我が家は排気口が雪に埋まりましたが、安全装置が働き大事には至りませんでした。しかし、清田は除排雪が進まず、今も堆く雪が積まれています。

三回目のワクチン接種は、二回と違うモデルナワクチン、少し不安はありましたが、熱も出ず腕が痛い程度で済みました。コロナ感染者が減少はしていますが、一日も早い収束を願うばかりです。秋の吟行会でお会いできれば嬉しいですね。

▽第十四回俳句大会には多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。本号には俳句大会作品集、会費振替用紙を封入しますので、どうぞよろしくお願い致します。

▽冒頭にも記しました通り、今年の総会、吟行会の開催予定は未定です。決定次第、改めてご連絡申し上げます。

▽この冬はオミクロン株の感染拡大と大雪の被害が重なり、身動きの取れない冬となりました。皆様ご無事ででしたでしょうか。春はもうすぐそこです。コロナ禍もそろそろ収束することをお願いしております。どうぞ皆様くれぐれもお体を大切にお過ごしください。(陽)